

令和5年2月13日

西部農林水産振興センター大田農業部

**標 題**    **GAP・美味しまね認証について知ろう・学ぼう in 邇摩高校**

(ダイジェスト)

邇摩高校の2年生21名を対象に、GAP・美味しまね認証の授業を開催しました。GAP・美味しまね認証の概要に加え、実際にGAPに取り組む生産者から体験談をご講演いただき、GAP・美味しまねの理解を深める有意義な授業になりました。

将来の担い手である農業系高校の生徒に GAP について理解を深めてもらうことを目的に、令和5年1月23日に島根県立邇摩高等学校において「GAP・美味しまね認証について知ろう・学ぼう」というテーマで授業を行いました。

授業の前半では、産地支援課美味しまね・GAP スタッフから「GAP と美味しまね認証制度について」というテーマで GAP の取り組みの5つの視点やリスク評価の重要性を紹介した後、大田農業部から大田市内の GAP・美味しまね認証の取得状況について説明しました。

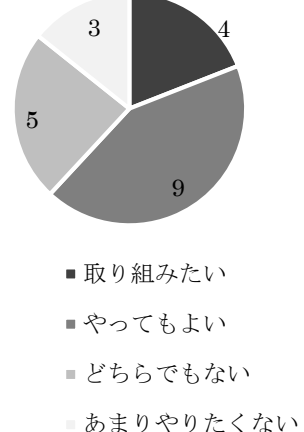
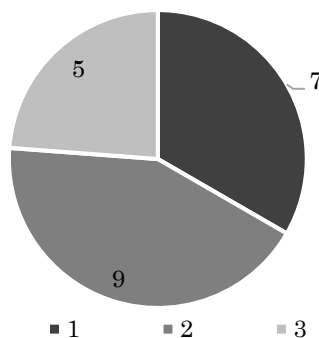
授業後半では、石見銀山アスパラガス生産組合の組合員で、大田地域の GAP リーダーである岩田有美氏から「リスク回避を日常に取り入れよう☆」というテーマで GAP に取り組んだ体験談をお話いただき、JA しまね石見銀山地区本部の生産販売課からは、管内の認証製品の販売状況についてご紹介いただきました。岩田氏の講演では、リスク評価の考え方を自らの日常生活に置き換えて考えてみる、という工夫を凝らしたユニークな内容で、生徒が興味深く聞き入っているのが印象的でした。

授業後に行ったアンケートでは、「美味しまね認証について知っていたか」という質問に対し、21名中20名がから知らなかったという回答が得られ、認知度向上に向けてさらなる取り組みの必要性を感じました。一方で、「もし、農業をするなら GAP・GAP 認証に取り組みたいか」という質問には、半数以上が前向きな回答であったことや、「課題研究でメロンを栽培する際に GAP に取り組みたい」という感想があったことから、今回の授業を通じて GAP の理解を深めることができたと考えています。今後は、邇摩高校でも GAP の取り組みを検討するとのことなので、引き続きサポートしていきます。



授業のようす

問 GAP・美味しまね認証は理解できたか      問 もし農業するなら GAP・GAP 認証に取り組みたいか



- 1 取り組みたい
- 2 やってもよい
- 3 どちらでもない
- 4 あまりやりたくない